

地形・地質

邑知平野は、能登半島の基部を斜めに横断し、幅 3km~5km、長さおよそ 27km の地溝状の低地帯です。地形上の特徴から、平野南西部が低湿な邑知潟低地、中央部が鹿島扇状地、北東部が七尾低地に区分されます。能登半島の基盤は、先第三紀の花崗岩・片麻岩類と推定され、第三紀層・洪積層・沖積層がそれを覆って堆積しています。

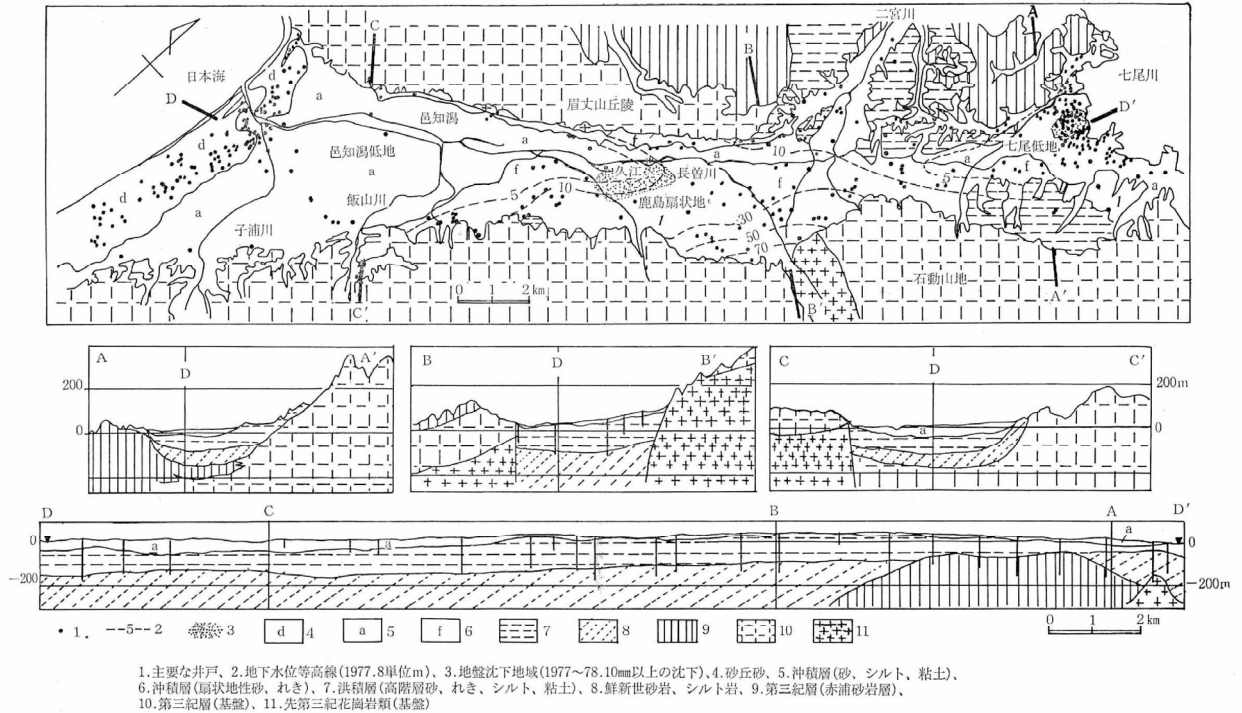
邑知平野の標準地層層序

時代	地質	層序		地形	帯水層
		平野西側	平野東側		
第四紀	完新世 砂・粘土 礫・砂・粘土	(沖積層) (")		七尾, 邑知潟低地 鹿島扇状地	○ ◎
	更新世 砂・礫・粘土 礫層	(段丘堆積物) 高階層		台地	○ ◎ ○
新第三紀	鮮新世 砂岩 シルト岩 シルト岩	小島層	古府層 中川層	丘陵	○ × ×
	中新世 泥岩 砂岩 礫岩 泥岩 安山岩類		赤浦層 眉丈山層		聖川層 高島層 城山層 国見層
		穴水累層		山地	× × ×
	先第三紀	花崗岩類・片麻岩類			×

◎ 良 ○ 普通 × 難帯水層

地下水

洪積層は帯水層として最もよく利用されていて、鹿島扇状地に分布する井戸の大半は洪積層を対象としています。羽咋市（邑知潟低地）では沖積砂層が主要な帯水層で、鮮新世の砂岩層や赤浦砂岩層も、良好な帯水層を形成しています。七尾低地では、洪積層のほか鮮新世のシルト・細粒砂岩層からも盛んに取水しています。



邑知平野の水文地質図

出典 日本の地下水（農業用地下水研究グループ,1986）（一部加筆）

「日本の地下水」では全国の地下水盆の概要が紹介されています。各地下水盆の概要を紹介している頁と関連する論文等を、下記の Web ページで閲覧できます。

<http://www.jagh.jp/jp/g/activities/committee/research/gwdb.html>（日本地下水学会）